

公益財団法人 日本ソフトボール協会機関誌

# ソフトボール

2025年／令和7年

第490号

12月号

（毎月1回10日発行）

編集兼発行者 公益財団法人 日本ソフトボール協会

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 Japan Sport Olympic Square

T E L. 03-5843-0480 F A X. 03-5843-0485

編集部 (株)日本体育社 〒113-0033 東京都文京区本郷2-40-13-501

T E L. 03-3811-6911 F A X. 03-3811-6290



魂の  
熱投！

第54回日本男子リーグ決勝トーナメント（2025.11.8～10／大阪府堺市）

## C o n t e n t s

- |                                      |    |                       |    |
|--------------------------------------|----|-----------------------|----|
| ・第54回日本男子リーグ決勝トーナメント .....           | 2  | ・第24回全日本エルデスト大会 ..... | 16 |
| ・ニトリ JD.LEAGUE 2025 プレオフ .....       | 6  | ・2025シーズン終了！ .....    | 18 |
| ・ニトリ JD.LEAGUE 2025 ダイヤモンドシリーズ ..... | 8  |                       |    |
| ・第58回日本女子リーグ順位決定節 .....              | 11 | ・事務局だより .....         | 20 |

公益財団法人 日本ソフトボール協会オフィシャルホームページ

[www.softball.or.jp](http://www.softball.or.jp)

# ●第54回日本男子リーグ決勝トーナメント●



大阪桃次郎

「奇跡的優勝」！  
16年ぶりの栄冠！！

2025シーズンの日本男子リーグ王者を決める「第54回日本男子ソフトボールリーグ決勝トーナメント」が、去る11月8日～10日（※雨天により1日順延）、大阪府堺市／くら寿司スタジアム堺（原池公園野球場）において開催された。

今回の決勝トーナメントには、レギュラーシーズン1位・平林金属、2位・Honda、3位・三重ヴェルデウイン、4位・ジェイテクト、5位・大阪桃次郎がそれぞれ進出。「最終決戦」に挑む予定だったが……第4節終了後、「2位」Hondaが「決勝トーナメント出場を辞退」することになった。

（公財）日本ソフトボール協会・リーグ委員会で協議の結果、「※3位以下のリーグ戦順位を1つ繰り上げる※Hondaの順位付けは行わない※決勝トーナメント出場チームは1位・平林金属、2位・三重ヴェルデウイン、3位・ジェイテクト、4位・大阪桃次郎、5位・高知バシフィッククウエーブとして取り扱う」ことが決定される「異例」の事態になった。

初日（11月8日／土）は翌日の優勝決定戦・3位決定戦進出をかけた合計3試合が行われ、まず第1試合（1回戦）で大阪桃次郎（レギュラーシーズン4位に繰り上げ）が高知バシフィッククウエーブ（レギュラーシーズン5位



に繰り上げ）を4-3の「サヨナラ」で撃破。

第2試合（準決勝）では、レギュラーシーズン1位の平林金属を三重ヴェルデウィン（レギュラーシーズン2位に繰り上げ）が8-1と「予想外の大差」で圧勝。

第3試合（2回戦）はジェイテクト（レギュラーシーズン3位に繰り上げ）とこの日の第1試合に勝利した大阪桃次郎が対戦し、大阪桃次郎が4-0の「完封勝利」で翌日の3位決定戦へ駒を進めた。

雨天順延をはさんでの3日目（11月10日/月）は3位決定戦・優勝決定戦の2試合が行われ、まず3位決定戦で大阪桃次郎（初日第3試合の勝者）が平林金属（初日第2試合の敗者）を初回のソロホームラン「一発」で退け、三重ヴェルデウィンが待ち受ける優勝決定戦へ。

地元・大阪の「期待」「声援」を「漲る力」に変えた大阪桃次郎は、三重ヴェルデウィンとの優勝決定戦も延長タイブレークにもつれ込む熱戦の末「2-1」で勝利！地元開催で文字通り「下剋上」「奇跡的優勝」を成し遂げ、日本男子リーグに参入し、いきなり頂点へ登り詰めた。2009年以来「16年ぶり2回目」の栄冠をつかんだ！！



【1回戦】

大阪桃次郎 **4-3** 高知パシフィックウェーブ



【準決勝】

平林金属 **1-8** 三重ヴェルデウィン



【2回戦】

大阪桃次郎 **4-0** ジェイテクト

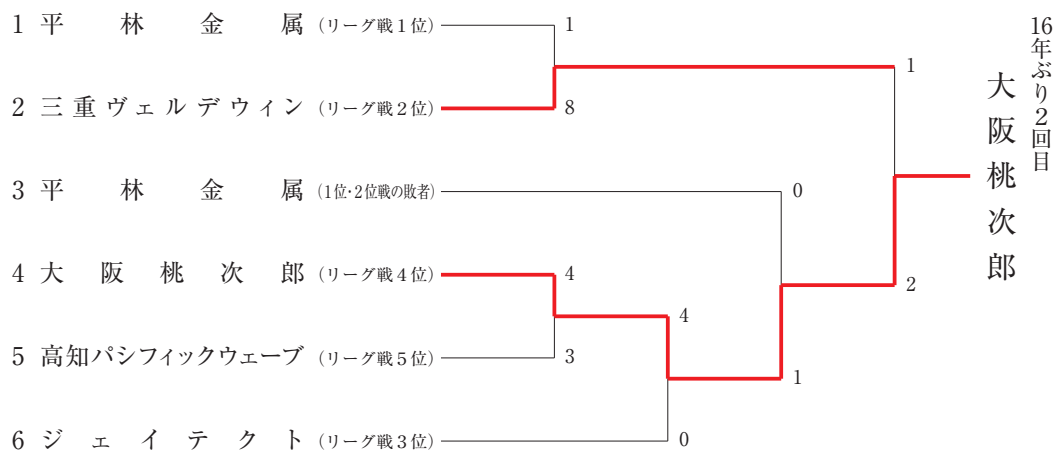








### 第54回日本男子リーグ決勝トーナメント



**2025 決勝トーナメントの  
詳細レポートはこちら！**





ニトリ  
JD.LEAGUE

ニトリ JD.LEAGUE 2025 プレーオフ





## プレーオフ ファーストステージ 日立 3－1 伊予銀行

「プレーオフ」ファーストステージは「東地区」4位で「ワイルドカード」を獲得し、勝ち上がってきた日立と最終日最終試合までもつれた「西地区」3位争いを制し、「初」のプレーオフ進出を果たした伊予銀行が対戦した。

試合は両チーム無得点で迎えた4回裏、日立が一死走者なしから5番・笠原朱里のライトスタンドへ運ぶソロホームランで先制。

一方、伊予銀行は1点をリードされたまま、迎えた終盤6回表、代打・平岡花がレフトスタンドへ「起死回生」のソロホームラン！「伏兵」の一発で試合を振り出しに戻した。

同点に追いついた伊予銀行はその裏、庄司奈々を投入。黒木美紀、庄司奈々の両投手をつなぐ投手リレー、「必勝パターン」で勝負に出たが、2四球と安打で二死満塁のピンチを招き、9番・唐牛彩名に痛恨の死球を与えてしまい、押し出し。さらに1番・藤森捺未にも押し出しの四球と乱れ、2点を勝ち越され、これが決勝点となり、「キャプテン」坂本実桜が1失点の完投。日立が3－1で逃げ切り、セカンドステージに駒を進めた。



日立が押し出しで決勝点を挙げた

## プレーオフ セカンドステージ ビックカメラ高崎 7－6 ホンダ



ビックカメラ高崎が「一発攻勢」で先制！

「プレーオフ」セカンドステージ第1試合は「東地区」2位のビックカメラ高崎と3位のホンダが「ダイヤモンドシリーズ」セミアイナル進出をかけ、対戦した。

試合は初回からビックカメラ高崎打線が爆発！ホンダ・先発のアリー・カーダの立ち上がりにも襲いかかり、4番・炭谷遥香、7番・工藤環奈の2本のスリーランホームランで大量6点を挙げ、初回で勝負を決めてしまった。

ホンダは1－7とリードされて迎えた最終回、「このままでは終われない」と猛反撃を開始。

この回から代わった勝股美咲を攻め、6番・吉田彩夏のソロホームランで反撃の狼煙を上げると、3連続四球で無死満塁。たまたまビックカメラ高崎は先発・上野由岐子を再出場・再登板させたが、1番・塚本蛭のタイムリーと2番・川畑瞳のレフトへの犠牲フライで「大差で楽勝」のはずの試合が1点差に……。最後は「レジェンド」上野由岐子が連続三振で締め、7－6の1点差に逃げ切ったが、薄氷を踏む勝利だった。

## プレーオフ セカンドステージ 豊田自動織機 2－1 日立

「プレーオフ」セカンドステージ第2試合は「東地区」4位、「ワイルドカード」でこのプレーオフに進出し、ファーストステージで「西地区」3位の伊予銀行を破って勝ち上がった日立と、「西地区」2位の豊田自動織機が対戦した。

豊田自動織機は2回裏、この回先頭の5番・佐藤友香がレフト前ヒットで出塁し、すかさず盗塁。次打者のレフトファウルフライで果敢にタッチアップから三塁を狙うと、これが相手守備の乱れを誘い、そのままホームイン。思わぬ形で先取点を挙げた。

一方、日立は4回表、二死走者なしから7番・堀口佳乃がセンター頭上を越える同点のソロホームラン！1－1の同点に追いつき、試合を振り出しに戻した。

豊田自動織機はその裏、5番・佐藤友香、7番・池上桃花の長短打に、またしても日立守備陣の連係プレイの乱れが絡み、一塁走者が一気に生還。結局、この1点が決勝点となり、2－1で豊田自動織機が勝利を収めた。



豊田自動織機が2－1で競り勝つ！

### ニトリ JD.LEAGUE 2025 プレーオフ 愛知県名古屋市・パロマ瑞穂野球場

月 日		試合結果
11月8日(土)	1st ステージ	日立 サンディーバ 3－1 伊予銀行 ヴェールズ
11月9日(日)	2nd ステージ	ビックカメラ高崎 ビークイーン 雨天順延 ホンダ リヴェルタ
	2nd ステージ	豊田自動織機 シャイニングベガ 雨天順延 日立 サンディーバ
11月10日(月)	2nd ステージ	ビックカメラ高崎 ビークイーン 7－6 ホンダ リヴェルタ
	2nd ステージ	豊田自動織機 シャイニングベガ 2－1 日立 サンディーバ

※ビックカメラ高崎 ビークイーン、豊田自動織機 シャイニングベガはダイヤモンドシリーズ セミアイナルに進出



トヨタ 3連覇達成



ニトリ  
JD.LEAGUE

ニトリ JD.LEAGUE 2025 ダイヤモンドシリーズ



## ダイヤモンドシリーズ セミファイナル 戸田中央 0－1 ビックカメラ高崎

「ダイヤモンドシリーズ」セミファイナル第1試合は、「東地区」で初優勝を飾った戸田中央と同2位・ビックカメラ高崎が対戦した。

試合は戸田中央・後藤希友、ビックカメラ高崎・上野由岐子、日本を代表する投手同士の投げ合いとなり、息詰まる投手戦を展開。両チーム得点できないまま、最終回を迎えた。

ビックカメラ高崎は7回表、この回先頭の4番・炭谷遙香が右中間を破る二塁打を放ち、出塁。犠打で確実に走者を三塁へ進めると、ここで戸田中央ベンチが動き、二者連続の故意四球。満塁策を選択した。これに燃えた8番・市口侑果が詰まりながらも「執念」で二遊間を抜くタイムリー！「オリンピック金メダリスト」の「意地」の一打で先取点を挙げ、その裏、必死の反撃を試みる戸田中央打線を「レジェンド」上野由岐子が三者連続三振に斬って取り、1－0の完封勝利。レギュラーシーズン「3連敗」、東地区「独走」で優勝を許した相手に見事「リベンジ」。最少得点差を守り切ったの完封勝利で2年ぶりの「ファイナル」へ駒を進めた。



市口侑果が決勝のタイムリー！

## ダイヤモンドシリーズ セミファイナル トヨタ 3－0 豊田自動織機



島仲湊愛が勝負を決める決勝スリーラン

「ダイヤモンドシリーズ」セミファイナル第2試合は「西地区」優勝のトヨタと同2位・豊田自動織機が対戦した。

この試合もトヨタ・メーガン・ファライモ、豊田自動織機・山下千世の投げ合いとなり、0－0のまま、試合が進行。迎えた5回裏、トヨタは安打、犠打、死球で一死一・二塁とし、1番・島仲湊愛が甘く入ったチェンジアップを見逃すことなく強振。右中間最深部に突き刺すスリーランホームランを放ち、待望の先取点を挙げた。

3点のリードをもらったメーガン・ファライモはさらにギアを上げ、懸命の反撃を試みる豊田自動織機打線に反撃の糸口さえ与えず、被安打1・奪三振10の好投で完封勝ち。「皇后盃 第77回全日本総合女子選手権大会」の決勝で敗れた相手に3－0で快勝して雪辱し、「3連覇」に「王手」。「宿敵」ビックカメラ高崎の待ち受ける「ファイナル」進出を決めた。

## ダイヤモンドシリーズ ファイナル ビックカメラ高崎 2－4 トヨタ

「3連覇」を狙うトヨタと3年ぶりの「王座奪還」をめざすビックカメラ高崎が「JD.LEAGUE」優勝をかけ、激突。

ビックカメラ高崎・上野由岐子、トヨタ・メーガン・ファライモ、両エースの先発ではじまった試合は3回表、トヨタがこの回先頭の9番・伊波菜々がセカンド内野安打で出塁。1番・島仲湊愛が一塁走者のスタート（盗塁）に気をとられ、二塁ベースカバーに入ろうとしたショートのを逆を突き、「ガラ空き」となった三遊間を抜く安打を放ち、一塁走者が一気に三塁まで進塁。打った島仲湊愛も送球間に二塁まで進み、無死二・三塁の絶好の先制機を作った。ここで2番・石川恭子がフルカウントからの6球目、詰まりながらもセンター前に落とすタイムリー！二者が還り、2点を先制した。先制し、勢いづいたトヨタは5回表にも、四球で出塁した走者を塁上に置き、4番・山田柚葵が右中間へツーランホームランを放ち、2点を追加。「3連覇」をグッと引き寄せた。

ビックカメラ高崎は最終回、6番・我妻悠香のレフトポール際に運ぶツーランホームランで2点を返し、完封を免れ、「意地」を見せたが……反撃もここまで。トヨタが「宿敵」ビックカメラ高崎の「エース」上野由岐子を攻略し、4－2で勝利を収め、「3連覇」を達成した。



トヨタが「3連覇」の偉業達成！

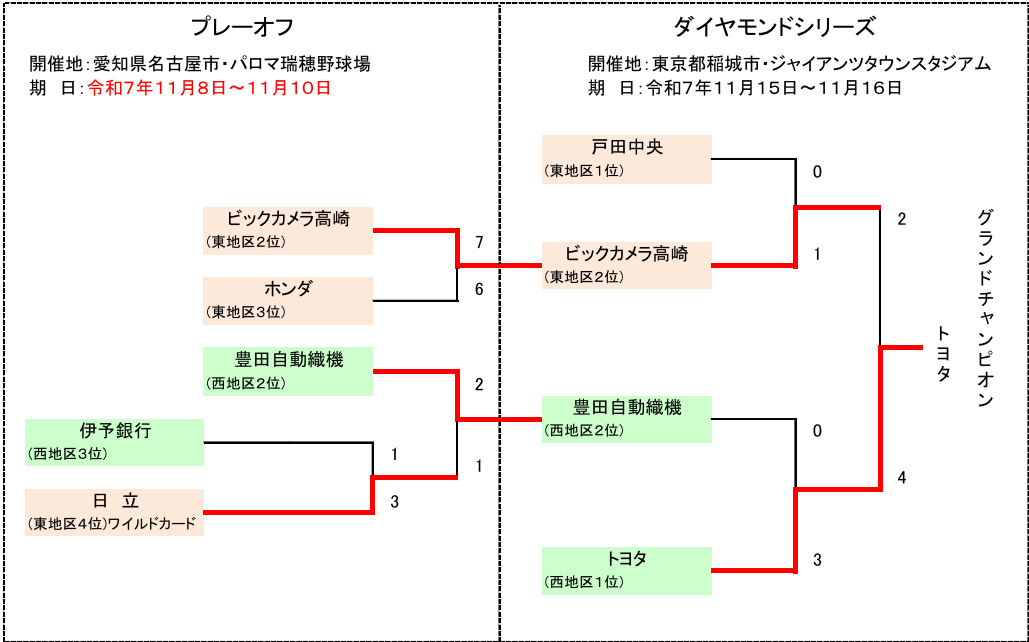
### ニトリ JD.LEAGUE 2025 ダイヤモンドシリーズ 東京都稲城市・ジャイアンツタウンスタジアム

月 日		試合結果
11月15日(土)	セミファイナル	戸田中央 メディックス埼玉 0－1 ビックカメラ高崎 ビークイーン
	セミファイナル	トヨタ レッドテリアーズ 3－0 豊田自動織機 シャイニングベガ
11月16日(日)	ファイナル	ビックカメラ高崎 ビークイーン 2－4 トヨタ レッドテリアーズ

※トヨタ レッドテリアーズ、3年連続の優勝！

ニトリ JD. LAEGUE 2025 ポストシーズン

[オフィシャルサイトはこちら](#)







**JAPAN  
SOFTBALL  
LEAGUE**

第58回  
日本女子ソフトボールリーグ  
順位決定節



画像提供・・静甲



画像提供・・静甲



静甲

# 王座奪還

【順位決定節】 令和7年10月31日（金）～11月3日（月／祝）

※悪天候のため1日順延

鹿児島県南九州市・知覧平和公園多目的球場

●順位決定節・Aブロック 試合概要・試合結果●

「第58回日本女子ソフトボールリーグ」順位決定節・Aブロックは、「プラチナセクション」「サファイアセクション」1位・2位のチームにより「日本リーグ優勝」が争われ、まず1回総当たりのリーグ戦を実施。その順位に基づき、1位・2位のチームが「優勝決定戦」を、3位・4位のチームが「3位決定戦」を行う試合方式で覇が競われた。

Aブロック・リーグ戦は「サファイアセクション」2位のVONDS市原がYKKに7-4、静甲に7-0、大和電機に1-0と3戦全勝。リーグ戦1位で「日本リーグ優勝」のかかる「優勝決定戦」に駒を進めた。

「プラチナセクション」1位の静甲は初戦のYKK戦に4-2で競り勝ち、ダブルヘッダーとなった大和電機戦も7-0で大勝。最終戦のVONDS市原戦は0-7と大敗を喫したものの、リーグ戦2勝1敗の2位で「優勝決定戦」進出を決めた。

「サファイアセクション」1位のYKKは初戦の静甲戦を2-4で落とし、ダブルヘッダーとなったVONDS市原戦も初回の4失点が響き、追撃及ばず4-7で連敗。最終戦の大和電機戦に5-4で勝利し、リーグ戦1勝2敗。3位で「3位決定戦」に回るようになった。

「プラチナセクション」2位の大和電機はリーグ戦、勝ち星なしの3連敗4位に終わり、こちらも「3位決定戦」に回るようになった。

大会最終日（11月3日／月・祝）の「3位決定戦」はリーグ戦1勝2敗で3位のYKKと3戦全敗で4位の大和電機が対戦。ともに「強打」を売り物にするチーム同士の対戦とあって、序盤から激しい点の奪い合いとなり、YKKが大和電機を5-3で振り切り、3位が確定。大和電機はこの「順位決定節」では1勝もできず、4位に終わった。

日本リーグ優勝をかけた「優勝決定戦」はリーグ戦3戦全勝で1位のVONDS市原と2勝1敗で2位の静甲が対戦。リーグ戦での対戦では大敗を喫した静甲が3回裏、四球で出塁した走者を一塁に置き、1番・半田由佳の一塁線を鋭く破る適時二塁打で先取点を挙げると、一死後、3番・井上葉菜にセンター頭上を越えるツーランホームランが飛び出し、3点を先制。「キャプテン」と「主砲」の活躍でリードを奪った。守っては、「エース」小井沼美月が力投。2回表、一死一塁から6番・千葉春海にレフトフェンス直撃の二塁打を浴び、一塁走者が一気に本塁を狙ったが、7-16-2とわたる見事な連係プレイ

で本塁寸前タッチアウト。この味方守備陣の好守でピンチを脱し、打線の援護で3点のリードをもらうと、毎回のように走者を背負いながらも「粘りのピッチング」で決定打を許さず、最後まで投げ抜き、3-0の完封勝利。2年ぶりの「王座奪還」を果たし、現行の試合方式になってから2回目となる「日本リーグ優勝」を手にした。



2年ぶり2回目の優勝を飾った静甲

第58回日本女子ソフトボールリーグ 順位決定節 Aブロック 試合結果					
月 日	セクション順位	試合結果		セクション順位	
10月31日(金)	プラチナ1位	静甲	雨天顺延	VONDS市原 Emerald Green	サファイア2位
	プラチナ2位	大和電機 Blue Lakers	雨天顺延	YKK	サファイア1位
	サファイア2位	VONDS市原 Emerald Green	雨天顺延	大和電機 Blue Lakers	プラチナ2位
11月1日(土)	プラチナ1位	静甲	4-2	YKK	サファイア1位
	プラチナ1位	静甲	7-0	大和電機 Blue Lakers	プラチナ2位
	サファイア1位	YKK	4-7	VONDS市原 Emerald Green	サファイア2位
11月2日(日)	プラチナ1位	静甲	0-7	VONDS市原 Emerald Green	サファイア2位
	プラチナ2位	大和電機 Blue Lakers	4-5	YKK	サファイア1位
	サファイア2位	VONDS市原 Emerald Green	1-0	大和電機 Blue Lakers	プラチナ2位
11月3日(月・祝)	リーグ戦4位	大和電機 Blue Lakers	3-5	YKK	リーグ戦3位
	リーグ戦2位	静甲	3-0	VONDS市原 Emerald Green	リーグ戦1位

優勝:静甲 準優勝:VONDS市原 Emerald Green 第3位:YKK 第4位:大和電機 Blue Lakers

※試合のスコアをクリックすると試合レポートがご覧になれます



●順位決定節・Bブロック 試合概要・試合結果●

「第58回日本女子ソフトボールリーグ」順位決定節・Bブロックは、「プラチナセクション」「サファイアセクション」3位・4位のチームにより「5位」「8位」が争われ、まず1回総当たりのリーグ戦を実施。その順位に基づき、1位・2位のチームが「5位決定戦」を、3位・4位のチームが「7位決定戦」を行う試合方式で最終順位を決定した。

Bブロック・リーグ戦は「プラチナセクション」4位の花王コスメ小田原が初戦のMORI ALL WAVE KANOYA戦に6-0の完封勝ち。翌日のダブルヘッダーは、まず小泉病院に6-1で圧勝し、最終戦の平林金属戦も5-13で競り勝ち、3戦全勝の1位で「5位決定戦」進出を決めた。

「サファイアセクション」3位の小泉病院は初戦のMORI ALL WAVE KANOYA戦に3-2の辛勝。初回到2点を先制される苦しい試合展開となりながら逆転勝ちし、ダブルヘッダーとなった平林金属戦は11安打・9得点の猛攻で9-0と圧勝。最終戦の花王コスメ小田原戦は1-6で落としたものの、2勝1敗の2位で「5位決定戦」へ駒を進めた。

「プラチナセクション」3位のMORI ALL WAVE KANOYAは初戦

の小泉病院戦で初回到2点を先制しながら2-13の逆転負け。出足で躓き、ダブルヘッダーとなった花王コスメ小田原戦は0-6と完敗を喫し、初日のダブルヘッダーに連敗。最終戦の平林金属戦は8-13で勝利を収め、1勝2敗の3位で「7位決定戦」に回るようになった。

小泉病院は終盤反撃。5回表、死球と2本の安打で満塁と攻め立て、1番・橋本奈津紀のショートゴロの間に三塁走者が還り、まず1点を返し、続く6回表には6番・上田爽樺のタイムリー、8番・奥本純子の左犠飛で2点を挙げ、3-3の同点に追いついた。しかし、それも束の間、その裏、花王コスメ小田原は一死二・三塁の勝ち越しのチャンスに4番・山岡未歩が塁上の走者を一掃する適時二塁打を放ち、2点を勝ち越し。

「7位決定戦」は、リーグ戦1勝2敗で3位のMORI ALL WAVE KANOYAと3戦全敗の平林金属が対戦。MORI ALL WAVE KANOYAが初回、7番・佐々木桃花の満塁ホームラン等で大量5点を先制し、結局、6-1で圧勝。「連覇」を狙ったシーズンは7位で終戦となり、敗れた平林金属は、この「順位決定節」では1勝もすることができず、8位に甘んじる結果となった。

最終回の小泉病院の反撃で1点差まで詰め寄られたものの、5-14で逃げ切り、「順位決定節」Bブロック最上位の5位となり、敗れた小泉病院が6位となった。



Bブロック「最上位」5位の花王コスメ小田原

第58回日本女子ソフトボールリーグ 順位決定節 Bブロック 試合結果				
月 日	セクション順位	試合結果		セクション順位
10月31日(金)	プラチナ3位	MORI ALL WAVE KANOYA	雨天順延	平林金属 Peachblossoms
	プラチナ4位	花王コスメ小田原 フェニックス	雨天順延	小泉病院 Blue Arrows
	プラチナ4位	花王コスメ小田原 フェニックス	雨天順延	平林金属 Peachblossoms
11月1日(土)	プラチナ3位	MORI ALL WAVE KANOYA	2-3	小泉病院 Blue Arrows
	プラチナ4位	花王コスメ小田原 フェニックス	6-0	MORI ALL WAVE KANOYA
	サファイア3位	小泉病院 Blue Arrows	9-0	平林金属 Peachblossoms
11月2日(日)	プラチナ3位	MORI ALL WAVE KANOYA	8-3	平林金属 Peachblossoms
	プラチナ4位	花王コスメ小田原 フェニックス	6-1	小泉病院 Blue Arrows
	プラチナ4位	花王コスメ小田原 フェニックス	5-3	平林金属 Peachblossoms
11月3日(月・祝)	リーグ戦3位	MORI ALL WAVE KANOYA	6-1	平林金属 Peachblossoms
	リーグ戦1位	花王コスメ小田原 フェニックス	5-4	小泉病院 Blue Arrows

第5位：花王コスメ小田原 フェニックス 第6位：小泉病院 Blue Arrows 第7位：MORI ALL WAVE KANOYA 第8位：平林金属 Peachblossoms

※試合のスコアをクリックすると試合レポートがご覧になれます

●順位決定節・Cブロック 試合概要・試合結果●

「第58回日本女子ソフトボールリーグ」順位決定節Cブロックは、「プラチナセクション」「サファイアセクション」5位・6位のチームにより「9位」12位が争われ、まず1回総当たりのリーグ戦を実施。その順位に基づき、1位・2位のチームが「9位決定戦」を、3位・4位のチームが「12位決定戦」を行う試合方式で最終順位を決定した。

Cブロック・リーグ戦は「プラチナセクション」5位のCitrine Ichinomiya、「プラチナセクション」6位・ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校、「サファイアセクション」6位のペヤングが2勝1敗の「同率」で並ぶ展開となり、「同率」で並ぶ3チームの「直接対決」の試合結果はいずれも1勝1敗。同率で並ぶ3チームの「直接対決」における「得失点差」での争いとなり、ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校が得点18・失点11でプラス7、ペヤングが得点10・失点12でマイナス2、Citrine Ichinomiyaが得点6・失点11でマイナス5となり、ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校の1位、ペヤングの2位、Citrine Ichinomiyaの3位が決定。ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校とペヤングが「9位決定戦」を戦うことになり、Citrine Ichinomiyaは「11位決

定戦」に回り、リーグ戦3戦全敗で4位の厚木SCと対戦することになった。「11位決定戦」は2勝1敗ながら「得失点差」の争いで3位となったCitrine Ichinomiyaとリーグ戦3戦全敗で4位の厚木SCが対戦。

厚木SCが初回、3番・木下奈津、4番・小山優理の長短打等で2点を先制したが、Citrine Ichinomiyaが3回裏、安打で出塁した走者を確実に犠打で二塁へ進め、さらに次打者のライトフライの間に、タッチアップから三塁へ進塁。1番・高橋みるのタイムリーで1点を返し、続く4回裏には、4安打を集中し、打者11人を送る猛攻。大量6点を挙げ、7―2と試合をひっくり返し、6回裏にも3連打から一死満塁の追加点のチャンスをつかみ、5番・林佑奈の右犠飛で三塁走者を迎え入れ、8―2とリードを広げた。

守っては、2回以降立ち直った先発・山下紗季が追加点を許さず、最後は川原麻里が締め、8―2で勝利を収め、最下位を免れ、11位。厚木SCが前年の4位から大きく順位を落とし、最下位に転落してしまった。

「9位決定戦」はリーグ戦2勝1敗の「同率」で並び、「得失点差」での争いの末、1位となったルネス紅葉スポー

ツ柔整専門学校と2位・ペヤングが対戦。ペヤングが2回裏、一死から5番・山岸滯衣のレフト前ヒット、6番・伊藤千夏のバント安打で一・二塁とし、7番・小野寺綺美の内野安打に相手守備の乱れが絡み、1点を先取。続く3回裏にも安打、犠打、安打、盗塁で一死二・三塁の追加点のチャンスをつかみ、4番・藤井杏朱がライトへ犠牲フライを打ち上げ、三塁走者が生還。2―10とリードを奪った。



Cブロック「最上位」9位となったペヤング

守っては、先発・齋藤南美がルネス紅葉スポーツ柔整専門学校打線をわずか3安打に抑え込み、完封。2―10で勝利し、Cブロック「最上位」となる9位の座を確保。敗れたルネス紅葉スポーツ柔整専門学校が10位となった。

第58回日本女子ソフトボールリーグ 順位決定節 Cブロック 試合結果					
月 日	セクション順位	試合結果		セクション順位	
10月31日(金)	サファイア6位	ペヤング	雨天順延	Citrine Ichinomiya	プラチナ5位
	プラチナ6位	ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校	雨天順延	厚木SC	サファイア5位
	サファイア6位	ペヤング	雨天順延	花王コスメ小田原 フェニックス	プラチナ4位
11月1日(土)	サファイア5位	厚木SC	6-9	Citrine Ichinomiya	プラチナ5位
	プラチナ6位	ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校	10-2	Citrine Ichinomiya	プラチナ5位
	サファイア5位	厚木SC	3-5	ペヤング	サファイア6位
11月2日(日)	サファイア6位	ペヤング	1-4	Citrine Ichinomiya	プラチナ5位
	プラチナ6位	ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校	6-4	厚木SC	サファイア5位
	サファイア6位	ペヤング	9-8	ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校	プラチナ6位
11月3日(月・祝)	リーグ戦3位	Citrine Ichinomiya	8-2	厚木SC	リーグ戦4位
	リーグ戦1位	ペヤング	2-0	ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校	リーグ戦2位

第9位:ペヤング 第10位:ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校 第11位:Citrine Ichinomiya 第12位:厚木SC

※試合のスコアをクリックすると試合レポートがご覧になれます



## 2025年度（令和7年度） 第58回日本女子ソフトボールリーグ 順位決定節 戦績表

## Aブロック(各セクションの1・2位)

	静甲	YKK	大和電機 Blue Lakers	VONDS市原 Emerald Green	勝 数	敗 数	リーグ戦 順位
静甲	☆	○ 4 - 2	○ 7 - 0	● 0 - 7	2	1	2
YKK	● 2 - 4	☆	○ 5 - 4	● 4 - 7	1	2	3
大和電機 Blue Lakers	● 0 - 7	● 4 - 5	☆	● 0 - 1	0	3	4
VONDS市原 Emerald Green	○ 7 - 0	○ 7 - 4	○ 1 - 0	☆	3	0	1



## Bブロック(各セクションの3・4位)

	MORI ALL WAVE KANOYA	小泉病院 Blue Arrows	花王コスメ 小田原フェニックス	平林金属 Peachblossoms	勝 数	敗 数	リーグ戦 順位
MORI ALL WAVE KANOYA	☆	● 2 - 3	● 0 - 6	○ 8 - 3	1	2	3
小泉病院 Blue Arrows	○ 3 - 2		● 1 - 6	○ 9 - 0	2	1	2
花王コスメ 小田原フェニックス	○ 6 - 0	○ 6 - 1	☆	○ 5 - 3	3	0	1
平林金属 Peachblossoms	● 3 - 8	● 0 - 9	● 3 - 5	☆	0	3	4



## Cブロック(各セクションの5・6位)

	Citrine Ichinomiya	厚木SC	ルネス紅葉	ベヤング	勝 数	敗 数	リーグ戦 順位
Citrine Ichinomiya	☆	○ 9 - 6	● 2 - 10	○ 4 - 1	2	1	3
厚木SC	● 6 - 9	☆	● 4 - 6	● 3 - 5	0	3	4
ルネス紅葉	○ 10 - 2	○ 6 - 4	☆	● 8 - 9	2	1	1
ベヤング	● 1 - 4	○ 5 - 3	○ 9 - 8	☆	2	1	2



VONDS市原 Emerald Green	(Aブロック1位)	0	1位	静甲
静甲	(Aブロック2位)	3	2位	VONDS市原 Emerald Green
YKK	(Aブロック3位)	5	3位	YKK
大和電機 Blue Lakers	(Aブロック4位)	3	4位	大和電機 Blue Lakers
花王コスメ小田原フェニックス	(Bブロック1位)	5	5位	花王コスメ小田原フェニックス
小泉病院 Blue Arrows	(Bブロック2位)	4	6位	小泉病院 Blue Arrows
MORI ALL WAVE KANOYA	(Bブロック3位)	6	7位	MORI ALL WAVE KANOYA
平林金属 Peachblossoms	(Bブロック4位)	1	8位	平林金属 Peachblossoms
ルネス紅葉	(Cブロック1位)	0	9位	ベヤング
ベヤング	(Cブロック2位)	2	10位	ルネス紅葉
Citrine Ichinomiya	(Cブロック3位)	8	11位	Citrine Ichinomiya
厚木SC	(Cブロック4位)	2	12位	厚木SC

# 第24回全日本エルデスト大会

令和7年11月1日（土）～4日（火）香川県丸亀市／土器川公園ソフトボール場

記録提供：香川県協会記録委員会

## 横浜マリンス（神奈川）



大会初日（1日／土）は午後からの降雨の影響で日没コールドゲームを余儀なくされた試合があったものの、予定通り1回戦／14試合を実施。2日目（2日／日）は2回戦／16試合、3日目（3日／月・祝）は3回戦・準々決勝／12試合、大会最終日（4日／火）は準決勝・決勝／3試合が行われ、無事に全日程を終了することができた。

最終日の準決勝には、CLUB SP I RITS（兵庫）、ファイヤー熊本（熊本）、浦安BBA（千葉）、横浜マリンス（神奈川）が勝ち上がり、「エルデストの頂点」をかけた戦いに挑んだ。



全国の46チームが集結し、熱戦展開！

標記大会は11月1日（土）～4日（火）の4日間にわたり、香川県丸亀市を舞台に開催。全国の厳しい予選を勝ち抜いてきた「エルデスト」の精鋭46チームが集結し、熱戦を繰り広げた。



### 〈準決勝〉CLUB SPIRITS 4－3 ファイヤー熊本

後攻のファイヤー熊本は初回、四球、バント安打、犠打で一死二・三塁の先制機をつかむと、次打者のサードゴロが一塁への悪送球となる間に三塁走者が生還。

CLUB SPIRITSも直後の2回表、敵失、盗塁、犠打、野手選択等で一死二・三塁とした後、相手守備の乱れで1－1の同点に追いついた。CLUB SPIRITSは4回表にも、5番・山口圭子のレフトオーバーの三塁打と6番・村田磨美のスクイズで勝ち越しに成功。5回表には、二死二・三塁から2つのワイルドピッチで2点を追加。4－1とリードを広げた。

一方、3点を追うファイヤー熊本は5回裏、9番・山崎佳世、1番・田中真由美の長短打で反撃に転じ、6回裏にも3番・村上すが子の安打、犠打、敵失で加点。1点差まで詰め寄る粘りを見せたものの、あと一歩及ばず、3－4で惜敗。決勝進出とはならなかった。



この接戦を制し、3年ぶりの決勝進出を決めたCLUB SPIRITS

### 〈準決勝〉横浜マリニズ 11－2 浦安BBA

横浜マリニズがコールド勝ちで決勝進出！



先攻の横浜マリニズは初回、1番・樋川教子が左中間二塁打、犠打、四球、盗塁で一死二・三塁のチャンスを作ると、4番・上田友美も左中間へ適時三塁打を放ち、2点を先取。さらに、相手守備の乱れで2点を加え、いきなり4点を先制した。勢いづく横浜マリニズは2回表、3回表にも1点ずつを追加。4回表には、7番・木村紀美枝の満塁の走者を一掃する適時二塁打等で一挙4点。5回表にも、2番・丸綾、3番・井口由佳、4番・上田友美の3連打で加点し、大量11得点の猛攻。2点を失いはしたものの「好調な打線」の活躍で、5回コールドの圧勝！ 決勝へ駒を進めた。

### 《決勝》CLUB SPIRITS 1－3 横浜マリニズ

横浜マリニズが序盤に3点を先制！



一方、なかなか得点を挙げられずにいたCLUB SPIRITSは、迎えた最終回、一死から5番・山口圭子がセカンドへの内野安打、これに敵失が絡む間に二塁へ、さらに、代打・三浦身知子のショートゴロの間に三塁まで進塁。二死ながら得点機を作ると、7番・内海良枝の三遊間を抜く適時打で生還。意地の1点を返したが、反撃もここまで。3－1で横浜マリニズが勝利を飾り、初の「頂点」へ登り詰めた。

横浜マリニズは2回裏、安打、犠打、死球等で二死一・二塁とし、8番・村山明美が右前適時打。これに相手守備の乱れが絡み、二塁走者に続き、一塁走者もホームイン！ 2点を先制した。先手を取った横浜マリニズは3回裏にも、安打、犠打で得点圏に走者を進め、3番・井口由佳が二遊間を抜く適時打！ 二塁走者が還り、3－0とリードを広げた。



力投を続けた横浜マリニズのエース石毛真由美投手が大会MVPに☆

大会結果詳細、全試合イニングスコアは日本協会オフィシャルサイトで！



# 2025 シーズン終了！



## 1 年間 お疲れ様でした !!

4月にはじまった2025シーズンもすべての大会を終え、一段落となった。「年度」で考えると、まだ3月の春季全日本小学生男子・女子大会、都道府県対抗全日本中学生男子・女子大会、全国高等学校男子・女子選抜大会の開催が残されているが、3月の大会開催まで、しばし「オフシーズン」となる。

今年の「夏」は例年にも増して「暑さ」が厳しく、大会開催時期の変更が議論されるに至り、大会開催時には「給水タイム」を設けたり、ミストシャワーを設置したり、インングの間には身体を冷却させる等、様々な形で「暑熱対策」が施された。また、不順な天候にも悩まされ、局所的、断続的な豪雨で試合の中断を余儀なくされ、その都度、関係者総出、チームの皆さんの協力も得て、グラウンド整備に奔走する等、それぞれがそれぞれの立場で全力を尽くし、大会を支える姿が見られた。

競技人口、チーム登録数の減少が叫ばれ、審判員も公式記録員も大会を支えるだけの人数を確保するのに四苦八苦。大会数日前からフェンスの設置やグラウンド整備に追われ、大会が終われば、すぐにその片付けが待っている。そんな風にソフトボールを支えてくれる人たちがいて大会は成り立っている。それは決して「当たり前」ではない。1年間の奮闘に心から感謝申し上げたい。



## 日本男子・女子リーグ JDリーグ



## 全日本大会





# 事務局だより

## 男子U23日本代表選手を選考！

来年（2026年）コロンビアで開催される「第2回男子U23ワールドカップ」に向け、「男子U23日本代表チーム選手選考会」を開催。12月2日（5日の4日間、高知県高知市／春野総合運動公園を会場に）男子U23カテゴリー「世界一」をめざす厳しい選考が行われた。



今年6月のアジアカップ優勝を弾みに、ワールドカップへ！

今大会への出場は「全日本大学連盟」

の「全面的な支援・協力」があつてこそ、実現したもの。まず、ワールドカップ出場権のかかるアジアカップに参戦するべく、日本協会より全日本大学連盟へチーム結成・大会出場を打診。「大学生の目標となり、将来の夢につながるのであれば……」と前向きに検討いただき、内外の支援・協力もあつて、何とか大会派遣が実現。全日本大学連盟による選手選考会を経て代表16名を決定し、6月2日～5日、タイ・バンコクで開催された「第2回男子U23アジアカップ」に出場。「U23大学男子日本代表、6戦全勝でアジアの頂点へ！」という吉報をもって「U23ワールドカップ出場権」がもたらされた。

U23カテゴリーのワールドカップは現行男子のみの開催とされているが、ジュニアカテゴリー（U18）とTOPカテゴリーをつなぐ「重要な強化・育成段階」として「注目」され、「期待」が高まってきている。

記念すべき第1回大会の覇者・オーストラリア、投打に駒が揃うアルゼンチン（前回3位）、メキシコ（前回4位）といったあたりが虎視眈々と王座を狙う「第2回男子U23ワールドカップ」。もちろん、前回準優勝の日本も初の頂点をめざして、オールジャパン体制で挑むこととなる！

大会は2026年4月25日～5月3日、コロンビア・シンセレホを舞台に開催される予定である（※選考会レポート・選考結果については、号を改めてお伝えする）。



チーム編成の顔ぶれは、いかに!?



優勝争いのライバルと目されるオーストラリア、アルゼンチン、メキシコ。今回も「強者」揃い！